

少なくとも三兎を追え

10月の朝の礼拝で中学教頭の久家先生が、「～ばかり」(悩んでばかり、遊んでばかり、勉強ばかり・・・)という取り組み方ではなく、いろいろなことに関心をもってほしい、もし、ちょっと疲れたら休んだり祈ったりして充電し、二度とない青春時代の経験を増やしてほしいというお話をされました。とてもいい気付きを私たちに与えてくれたと思います。本校では、毎朝の礼拝でいろいろな先生方から、これまでの自分への振り返りや今の自分への癒しやこれからの自分への励ましを得ることができます。教科活動の時間だけではない、素晴らしい時間が本校にはあります。

さてみなさん「二兎(にと)を追うものは、一兎(いっと)をも得ず」ということわざを知っていますか。欲張ると何も得られない、結局どちらも失敗するといった意味をもつことわざです。ちなみに反対語に「一挙兩得」や「一石二鳥」という四字熟語があります。

中高校生年代の“青春時代”は、みなさんのこれからの長い人生の先で振り返ったとき、どんな“青春”がよかった、役立ったといえる“青春”になるだろうか想像してみてください。

私は、学校教育スローガンとして『ひとりにもなれる ひとつにもなれる』というフレーズや『自分よし 相手よし みんなよし』というフレーズを用い、みなさんがもつ考えを広げたり、深めたりしたいと思っています。そして、みなさんがよかったと思える“青春”になるために、みなさんに言いたいことがあります。それは、勉強、学校行事、部活動(諸活動)の3つを代表として、「**少なくとも三兎を追え**」とあえて言いたいと思っています。これは無理だ、無駄だと言う人もいるかもしれませんが。でもその無理や無駄というものが実は長い人生で生きてくるからです。

挫折することも多々あります。壁にぶち当たったり、深みにはまって、身動きがとれなくなったりすることもあります。そんなときは、みんなで助け合えばいいのです。仲間に助けられ、仲間の心に寄り添い、仲間との絆を学ぶはず。その過程を通じて、**タフで優しい人**に育っていくと考えます。そして、真に『**自分よし 相手よし みんなよし**』の学校文化が醸成されていくと思います。

同じような考えで、よく「文武両道」という言葉が使われます。

「文武両道」とは、一人一人の人間が「文」にも「武」にも長けていることであり、「文」とは勉強のこと、「武」とはスポーツなど、為すことによって学ぶすべてのものを言います。したがって、運動部も文化部も生徒会も係活動、ボランティア活動もすべて「武」と考えます。そして、為すこと、つまり、経験を伴った学びにより、自らを向上させる体験を通して、劇的に変化する多様な社会に対応する能力を身に付けることを目指すという意味です。

みなさんはこれまでも学校の内外で、さまざまな体験的活動を通して、「文武両道」を目指し、いかに生きるべきかを考えてきたことと思います。そしてその空気は、生徒のみなさんから生徒のみなさんへの波及効果もあります。何よりもみなさんの本気で、素敵な表情をたくさん見ることで、まわりの私たち大人も、さらにみなさんの思いを応援していきたいと気持ちになります。

「**少なくとも三兎を追え**」「**文武両道**」言いたいこと、伝えたいことは同じです。

学校行事や部活動を頑張っている人もたくさんいます。みなさんのチャレンジに無理や無駄などないのです。最後まであがいて、苦しむこと！！**タフで優しい人**になるために・・・さあ、次の学年(ステージ)へ。

(学校長 重枝 一郎)